

金比羅山古墳

KONPIRAYAMA Tumulus

王塚古墳

OUZUKA Tumulus

穂波川河川敷より寿命丘陵を望む。

金比羅山古墳は、桂川町の北側、国道200号線沿いの寿命丘陵上の標高約88mの位置にある前方後円墳です。後円部頂上に金比羅宮を祀った祠と鳥居があることから、金比羅山古墳と名付けられました。

少なくとも昭和10年には古墳であることが認識されており、昭和24年の測量調査で全長約81mと判明。築造の形式などから、丘陵上のその他の古墳とともに、王塚古墳に先行して築造された古墳として位置づけられてきました。しかし、測量図が未公開だったため、実態がよくわかっていませんでした。

そんな金比羅山古墳について、九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室による調査が、平成24年～26年にかけて4回実施され、平成26年9月の調査では、地中レーダー調査が実施されました。

今回は、この調査の報告書である桂川町教育委員会『桂川町文化財調査報告書第20集 金比羅山古墳』（平成27年3月発行）をもとに、調査結果とそこから見えてくることをお伝えします。

金比羅山古墳調査結果の概要

【遺跡名】金比羅山古墳

【時代】古墳時代（3世紀末～4世紀初め）

【形状】前方後円墳（後円部3段、前方部2段）

【全長】約81m

【構築法】地山を削り出での構築（一部盛土）

【外表施設】周溝、ふき石、埴輪を持たない

【調査期間】

○平成24年2月22日～3月2日

○平成24年9月18日～27日

○平成25年9月16日～27日

○平成26年9月11日～22日

【調査総括】桂川町教育委員会

【調査】九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室



1 金比羅山古墳現地調査の様子。

2 平成26年9月に実施された金比羅山古墳の現地説明会には、町内外から200人を超える見学者が訪れました。3 後円部頂上の鳥居と祠。『桂川町誌』によると1800年代に建立されたようです。

